

日時：令和5年10月24日（火）午後1時30分～午後2時50分

場所：苫小牧市役所9階議会大会議室

○進行（高橋上下水道部総務経営課長）

○委嘱状交付

○開会

令和5年度第1回苫小牧市公営企業調査審議会開会（委員16名中13名出席、苫小牧市公営企業調査審議会条例第7条第2項の規定による審議会開催の定足数を満たしている。）

○市長挨拶

ただいま、皆様に苫小牧市公営企業調査審議会委員を委嘱させていただきました。2年間の任期になりますが、どうぞよろしくお願いいたします。

苫小牧市の水道水であります、樽前山麓の伏流水である幌内川、勇払川、そして錦多峰川の清流から取水をしており、旧厚生省のおいしい水研究会が発表した水道水のおいしい10万人以上の都市に選ばれるなど、全国有数のおいしい水と評価されております。

本日、皆様の席に置いております「とまチョップ水」でございますが、昨年のモンドセレクションにおきまして、二度目の金賞を受賞しており、苫小牧のおいしい水が世界的にも評価されているところでございます。

一方で、水道・下水道事業は事業開始から70年余りが経過し、老朽化した施設の更新、あるいは耐震化、人口減少に伴う料金収入の減少など、課題が山積している今日でございます。

引き続き、市民の皆様の大切な、本当に一番ベースになるライフラインであります、これを守るために各種の施策を着実に実施しながら、安全・安心でおいしい水道水の安定供給、快適な生活環境づくりに努めていかなければならないと考えております。

また、ゼロカーボンシティの実現に向けまして、再生可能エネルギーを効率的に導入するなど、取組を進めてまいりたいと考えています。

本日は、特に諮問事項はございませんが、令和5年度、水道・下水道事業の概要、そして令和4年度の決算状況、経営戦略令和5年3月ローリング版の説明をそれぞれさせていただきます、忌憚のないご意見をいただければと思います。

以上、簡単ではありますが、開催に当たりまして、ご挨拶とさせていただきます。

どうぞ、2年間よろしくお願いいたします。

○委員自己紹介（出席委員13名）

○職員紹介（上下水道部長、部次長 他）

○正副会長の互選

公営企業調査審議会条例第5条第1項の規定により、正副会長各1名を選出。

互選の結果、会長に渡邊敏明委員、副会長に遠藤和盛委員に決定。

○会長挨拶

○進行（苫小牧市公営企業調査審議会条例第5条第2項により、渡邊会長が議長を務める）

【会長】

それでは、会議を進めさせていただきます。

はじめに、令和5年度苫小牧市水道・下水道事業概要について説明をお願いします。

○苫小牧市水道・下水道事業概要の説明

【部長】

本市の水道事業は昭和25年から、下水道事業は昭和27年から事業を開始しており、現在、99%以上の市民の皆様にご利用をいただいているところでございます。

その一方で、事業開始が早かったために、各施設の老朽化や耐震化が課題となっており、計画を立て、現在、更新工事等を進めているところでございます。

また、近年では、線状降水帯などによる大雨被害が発生しており、下水道のポンプ等も増基を進めているところでございますが、こちらのほうも今後留意していかなければならない課題と認識をしているところでございます。

本日は、皆様の忌憚のないご意見を頂戴し、今後の事業運営に生かしてまいりたいと考えておりますので、最後までよろしくお願い申し上げます。それでは、各担当よりご説明申し上げます。

【事務局】

初めに、水道事業の概要につきまして、事前に送付させていただきました資料1、水道事業概要の冊子に沿いまして、ポイントを絞ってご説明させていただきます。

まず、1ページ目をご覧ください。本市の水道事業は昭和25年に事業を創設して以来、令和4年度で72年が経過したところでございます。現在の給水人口は、約16万6,000人、給水普及率は99.96%と非常に高く、市内のほとんどの方が水道を使える環境となっております。

続きまして、3ページ、水源をご覧ください。本市の水道水は幌内川、勇払川、錦多峰川の三つの河川から原水を取水しております。これらの大切な水源を守るために、定期的に取水河川周辺のパトロールや清掃活動などを行い、水質の保全と水源の監視に努めております。また、苫小牧の水道水はおいしいと多くの方から言われておりますが、これは元となる河川の水質が良好で、消毒に使う塩素の量が少ないこと、水源の自然環境が豊かで、人工的な汚染や異常な臭気がないこと、そして程よいミネラルが含まれていること、こうした条件がそろっていることが苫小牧のおいしい水道水の秘密となっております。

次に、4ページ、浄水場をご覧ください。東西に長い本市では、市内の中心部から東側地域を

受け持つ高丘浄水場と西側の地域を受け持つ錦多峰浄水場の二つの浄水場がございまして、そこから市内に水道水をお届けしております。

続きまして、5ページ、水質管理をご覧ください。水道水の水質基準につきましては、水道法で定められた51項目について遵守しなければなりません。この水質検査は定期的の実施しており、常に安全な水道水の供給に努めているところでございます。

続きまして、6ページ、事業運営をご覧ください。皆様ご承知のとおり、水道は皆様の暮らしや社会経済活動を支える重要なライフラインであり、安定した事業運営を継続していかなければなりません。本市の水道事業といたしましても、将来に向けた様々な課題を解決し、事業の促進を図るために、平成30年に新水道ビジョンを策定しております。この新水道ビジョンにおいて、「いつでも・どこでも・おいしい水 未来へつなぐ苫小牧の水道」を基本理念として掲げ、3つの基本施策、17の目標・実現方策を示してございます。

また、この新水道ビジョンの具体的な事業内容や、そのスケジュールを整備した実施計画についても同時に作成しておりますが、昨今の社会情勢等を反映した計画の一部見直しを中間年次となった令和4年度に行ったところでございます。

なお、この新水道ビジョンと実施計画につきましては、市のホームページからご覧いただけますので、ぜひご確認いただければと思います。

続きまして、現在取り組んでいる具体的な事業につきまして、ご説明いたします。7ページをご覧ください。初めに、老朽化施設更新事業でございます。高丘浄水場の機械・電気設備の老朽化による更新に伴い、令和2年度から管理棟の建て替え工事を行っていましたが、令和5年2月に完成し、3月より新管理棟での運転を開始いたしました。なお、皆様には、本日の会議終了後の施設見学として、高丘浄水場にご案内させていただきますので、その際にも新しくなった管理棟をご覧くださいと思います。

次に、8ページ、老朽管の更新事業をご覧ください。水道管の法定耐用年数である40年を超えたものを経年管と呼んでおりますが、中でも主に昭和40年代後半に整備された普通铸铁管や塩化ビニール管、硬質ポリエチレン管などは耐震性が低く、劣化も著しいことから、老朽管と位置づけまして、優先的に更新を進めております。これら老朽管の更新率は94.67%となっております。

次に、9ページ、浄水場施設耐震化事業をご覧ください。耐震診断の結果に基づき、平成23年度から順次、施設の耐震化を進めておりまして、現在の耐震化率は84.21%。高丘浄水場の6施設を残すのみというところになっております。

続きまして、10ページ、重要水道管耐震化事業をご覧ください。口径300ミリメートル以上の導水管や送水管などの管路を重要水道管と位置づけておりますが、その中でも老朽管や耐震性に劣る管を優先的に耐震化に更新しております。現在の耐震化率は60.17%となっております。下段の重要給水ルート耐震化事業につきましては、災害時、特に水道水を必要とする災害対策本部や応急給水拠点などを対象に、これらの施設までを重要給水ルートと位置づけ、優先的に耐震管に更新しております。現在の耐震化率は58.50%となっております。

次に、11ページ、緊急貯水槽整備事業をご覧ください。緊急貯水槽につきましては、令和4年度に2基の設置工事が完成したことにより、計画しておりました17基全ての設置が完了いたしました。

続きまして、12ページ、水道管の維持管理をご覧ください。水道管は腐食や破損などによりまして、漏水することがございますが、これらを早期に発見し、早期の修理につなげるため、目視による管路点検のほか、目視できない埋設管につきましては、漏水音探知調査や無線型漏水監視ユニットによる調査を継続的に行っております。

13ページの経営等に関する項目につきましては、後ほど、別の担当からご説明させていただきます。

続きまして、15ページの広報活動をご覧ください。本日、皆様のお手元にお配りさせていただいております「とまチョップ水」でございますが、広報活動の一環として平成27年から販売を開始しております。国際的な評価機関であるモンドセレクションにおきまして、2019年に道内の水道水やボトルドウォーターとしては初めてとなる金賞を受賞し、2022年にも連続で金賞を受賞いたしました。このことは、苫小牧のおいしい水道水が国際的にも評価されたものと考えているところでございます。

最後となりますが、16ページの撤去水道メーター分解委託事業をご覧ください。使用済み水道メーターの分解、分別作業につきまして、令和元年から障害者就労施設等に業務を発注しております。この事業の主な目的といたしましては、障害者の就労支援や経済的自立に寄与するものとなっておりますが、受注した福祉施設からも大変好評をいただいております。今後もこれらの事業は継続してまいりたいと考えているところでございます。

以上で、令和5年度の水道事業の概要説明とさせていただきます。

【事務局】

下水道事業の概要につきまして説明させていただきます。お手元の資料2、下水道事業概要の冊子に沿いまして、ポイントを絞って説明をさせていただきます。

まず初めに、6ページをご覧ください。下水道の役割につきましては、下水道は社会生活から排水される汚水をきれいな水に浄化することで、衛生的な都市環境を守るとともに、放流先である川や海の水質を保全する重要な役割を担っております。

また、舗装化が進む市街地の雨を速やかに排除することで、家屋浸水や道路冠水を防ぎ、市民生活の安全・安心を守る役割も担っており、現代生活に欠かすことができない重要な社会インフラの一つでございます。

9ページをご覧ください。下水道の整備状況につきましては、上段の市街地を3色に着色した図のとおり、下水処理を3地区に分けて行っており、それぞれの処理区ごとに下水処理センターがございます。下水道管を通じて下水処理センターに流れてくる汚水は、きれいな水に浄化した後、近傍の川や海に放流し、公共水域の水質を保全しております。

下段をご覧ください。本市の下水道管の総延長は令和4年度末で1,519キロメートルとな

っており、直線距離で九州の長崎市に達する長さとなっております。

10ページをご覧ください。下水道の普及状況につきましては、ただいまご説明した下水道管、また下水処理センターの施設整備によりまして、下水道普及率は99.3%に達しており、苫小牧市の市街地におきましては、ほぼ全ての地域で水洗トイレが使用できる状況となっております。この普及率につきましては、道内の人口10万人以上の都市の中では、札幌市に次ぐ2番目に高い率となっております。

11ページをご覧ください。下水道施設の老朽化対策につきましては、本市は99%を超える高い整備率ゆえに多くの下水道施設を保有しております。下水道は、昭和27年の事業開始から70年余りが経過しており、今後はこれらの施設を維持するための老朽化対策が重要な取組となります。上段の写真は、古くなった下水道管の中に新たな下水道管を整備する更生工法と呼ばれる下水道管の改築方法ですが、このような手法を用いながら下水道管の老朽化対策を進めております。また、下水処理センター、中継ポンプ場の機器類につきましても、日常的に点検調査を行いながら劣化状況に応じて改築更新を行っているところでございます。

続いて、12ページをご覧ください。大雨・浸水対策につきましては、下水道は市街地に降った雨水を速やかに川や海に放流することで、道路や住宅の浸水被害を防ぎ、市民生活の安全・安心を守る重要な役割も担っております。こちらの写真は平成26年、1時間当たり100ミリの記録的な大雨が降ったときの状況でございますが、こうした雨を踏まえまして、平成27年度からは雨水管の整備基準を約1.6倍に引き上げるなど、大雨対策の強化を図りながら、浸水被害の軽減に努めているところでございます。

13ページをご覧ください。管路施設の維持管理につきましては、下水道管は長年の使用により、油や堆積物が固まったり、管が破損することで下水が流れなくなったりする場合がございます。そこで、下水道管の内部を清掃、またテレビカメラ調査ロボットを用いた点検調査を計画的に行うなど、適切な維持管理に努めております。

16ページをご覧ください。下水道資源の有効利用につきましては、家庭から排出された汚水を下水処理センターできれいな水に処理する際に取り除いた汚れの塊、下水汚泥が発生します。本市は下水汚泥からメタンガスを作り、そのガスを燃料とした発電を行うことで、西町下水処理センターが消費する電力の約4割を賄っております。また、下水汚泥には肥効成分であるリンや窒素を多く含んでいることから、農地の肥料や肥料会社の原料としても活用しているほか、建築資材のセメント原料としても有効利用しており、全量を余すことなくリサイクルすることで資源の有効活用を図っております。

最後になりますが、23ページをご覧ください。広報事業でございます。下水道は施設が地中にあることから、人目につく機会が少なく、また、高い普及率ゆえに水洗トイレがある快適な暮らし、匂いやハエなどが発生しない衛生的な暮らしが当たり前となっております。将来にわたり、下水道がある暮らしを持続するためにも、下水道の役割や価値を多くの市民に知っていただく必要があることから、下水道の認知度を高めるための取組としてマンホールを使用した広報事業にも取り組んでおります。ご覧のとおり、とまチョップ、ポケットモンスター、ダイヤのAのキャ

ラクター蓋の設置や全国の自治体と共同でマンホールカードの配布を行うなど、話題や注目を集めるような工夫を凝らした広報事業に取り組んでいるところでございます。

以上、簡単ではございますが、下水道事業の概要説明とさせていただきます。

○質疑

【委員】

①水道事業について、有効率が94.4%となっておりますけれども、有効率改善の方策はどのようなことを取り組んでいるのでしょうか。また、耐震性、漏水対策の取組は進んでいるのでしょうか。

②人口減少の中で将来的に過大設備になってくることが予想されるのかと思っており、それに向けて適正化や効率の取組というのは、どのようなことをやっているのでしょうか。

【事務局】

①有効率を上げるための取組としましては、先ほど水道課長が概要で説明させていただきましたけれども、漏水管である耐震性の低い普通铸铁管、塩化ビニール管、硬質ポリエチレン管の更新を実施しており、維持管理面でも継続的に漏水調査を実施しております。漏水の早期発見のための取組を継続的に行っているところでございます。

【事務局】

②道路に埋設されている水道管などは、人口が増加する時代に将来を見据えて整備されたものがほとんどということになっておりますので、過去に整備してきた施設の中には、今後の人口減少の時代を迎え、水道の使用量が減少することを考えると、過大となる施設もあることになります。このような状況から、私どもも現在老朽化した水道管を更新、取替えを行う際には、水道管の太さを適正な規模へ縮小するなど、ダウンサイジングの取組を進めているところでございます。

また、現在使用している水道管につきましては、高い耐震性能を有した管を使用しておりますので、老朽管の更新工事を推進することによって、耐震性も同時に推進するということで、効率的な事業実施となるように努めているところでございます。

【委員】

①雨水対策として5年に一度から10年一度の大雨に対応できるように計画を変更したというお話がありましたけれども、昨今、地球温暖化の影響でかなりのゲリラ豪雨というのが増えていると思いますが、家の水洗トイレが、この間の豪雨で使えなくなり、水がはけていかないという状況になりました。これから、全国的にもゲリラ豪雨による被害がますます増えてくるとは思います、それで十分に対応できるのか。

②トイレが、長期間使えなくなった場合の対応について何か市のほうで考えられているのかお聞きしたいと思います。

【事務局】

①ゲリラ豪雨に対応できる施策ということでございますが、私どもはこれまで平成27年度から平成29年度までの3年間をかけて、大雨対策3か年事業というものに取り組んできました。内容としましては、道路冠水被害を軽減する浸水対策とトイレ排水などの影響を軽減するという雨水、雨水管の排水能力を高める対策として、川沿町における雨水管線整備、それと質問にもございました、これまで1時間当たり33.7ミリの大雨に対応する5年確率の雨水管から1時間当たり53.6ミリの大雨に対応する10年確率で引き上げる対策に着手し、これについては今後も継続して取り組んでいくところでございます。トイレ排水への影響を軽減する対策といたしましては、市内にある西町下水処理センターと、川沿町にある糸井中継ポンプ場の処理能力を約1.5倍に増強し、トイレなどの排水不良影響時間を短縮するという取組を行っております。また、汚水の流れを改善するバイパス管整備、あとは雨水と汚水のポンプ場、こちらにおける排水能力を増強するという対策を進めているところでございます。

②下水道が利用できなくなった場合のトイレのお話ですが、このときのトイレの確保対策を一つの例としてお答えさせていただきますと、ご要望があった方々に非常用の簡易トイレキットを配布するほか、小学校やコミセンのトイレを開放するとともに、広報車によるアナウンスと併せて防災スピーカーによる放送や苫小牧市のホームページなどのSNSを活用した広報活動を行ってまいりました。

【委員】

自宅のトイレが吹き上がった場合に、自分で対策することは不可能なのですか。

【事務局】

対策の一つとして、下水道管の中に常に常駐している空気、これが行き場を失ってしまいます。その空気がトイレなどの宅内の排水管に押し出される、これがトイレの「空気だまりという現象」といった要因や、あとはポリ袋などに水を入れて、水があふれるのを抑える水囊といったような利用など、我々が発行しております「水だより」への掲載をしておりますので、そういったものを活用しながら、一時的な対処法ができればと考えております。

【委員】

例えば「とまチョップ水」についても、日常的に飲んでいて、おいしいと思っていました。それは世界的にも有名になっているという本当に改めて苫小牧の誇りだなと思っています。千歳市に建設されるラピダス工場のことに関して、そこで地下水を守ることがかなり重視しているのだということが強調されていたのですが、専門家の意見として、苫小牧はそんなに近いわけではないけれど、地下水はいろんな形でつながっているものですから、よもや苫小牧まで入ってくるようなことはないだろうかと心配したりもしました。こうだから大丈夫だよということを教えていただけたらと思っています。

【事務局】

ご心配されております地下水の関係ですが、今報道によりますと、ラピダスの工場で使う水は、北海道が管理している企業局で作っている工業用水を原料として使うと報道されております。これは、先ほどご紹介しました苫小牧の水道に使っている水源とはまた別な安平川という川から水を取っていることになりますので、まず、苫小牧の水道とは直接は影響しないものと考えております。地下水の関係ですが、工場でどのような形で地下水を取水されたり、あるいは排水されたりということの詳細は分かりかねますけれども、使われた水についても適正に処理をされて、千歳市に処理場がございますので、そちら側に流すのではないかというような報道だったかと思います。処理をきちんとされることによって、周辺への環境への影響というのは当然のことながら、向こうの事業としても検討した上で、安全を確認しながらやられていることだと思いますので、直接的に苫小牧市に何か被害が出るというようなことはないものと考えております。

【委員】

①水道概要の広報活動について、ご質問させていただきたいのですが、この平成27年から販売が始まった「とまチョップ水」私も一ファンとして事あるごとに利用させていただいています。昨年、モンドセレクションで連続金賞を果たした「とまチョップ水」を愛飲している一人として、これからは苫小牧というと水のおいしいまちと思ってもらえるように、さらに「とまチョップ水」のブランド力を高めていくことが大切ではないかと思いますが、そういうことに関しての現在の取組についてお聞かせいただきたい。

②現在の販売店舗数と販売本数をお聞きしたいと思います。

【事務局】

①一つは情報発信といたしまして、おいしい水のことを分かりやすく紹介することが今後も大切だと考えております。主な取組といたしましては、ホームページ、LINE、「水だより」など媒体を活用して、苫小牧の水道水のおいしさや安全性、上下水道部が実施している取組などについて、広くPRしているところでございます。次に、市民と直接の対話ができるよう、港まつりなどのイベントでパネルやPRグッズなどを活用して、苫小牧の水道水や上下水道部の取組について紹介をさせていただいております。また、あわせて「とまチョップ水」の販売、配布を実施することでブランド力の確立と向上につなげてまいりたいと考えております。

②「とまチョップ水」の販売店舗数と販売本数でございますが、平成27年6月から、当初は市内4店舗で販売を開始いたしましたが、現在は79店舗まで拡大をしている状況でございます。また、販売本数でございますが、販売当初は約3万4,000本の実績でしたが、令和4年度で約7万5,000本、今年度は9月30日現在、約6万本で、前年度同時期と比較をいたしますと約149%の増となっているところでございます。

【委員】

この「とまチョップ水」が世界的にも評価されているということで、私たちは日常生活の中で蛇口をひねると当たり前においしい水が飲めています、今日の水道や下水道も全て概要説明などを聞いて、おいしい水ができるまでの様々な工程や取組があつて、安全で安心なおいしい水が飲めているということをもっと広く市民に伝える方法はないのかなということも考えました。特に、子供たちにそういったことを教えていくことが大切なことと考えますが、そういう教育などの手段など、何かお考えがあればお聞かせください。

【事務局】

まず、子供たちにとって学びですとか、体験、ふれあいということを通じて、水道に親しんでいくこと、また事業に対する理解を深めていただくことを我々は一つの目標としているところでございます。具体的な取組につきましては、本年2月13日から高丘浄水場の新管理棟で新たな水作りが稼働をし、収容人数130人のロビーの使用が可能となったことから、9月30日現在で小学校7校、481名の施設見学の受入をし、実際に水ができる工程を学習していただいております。また、小学3、4年生の社会科副読本「のびゆく苫小牧」を使用した授業を通じて、水のことを学習していただいているところでもございます。さらに浄水場、水作りについての動画を製作中でありまして、学習の一助として活用をしていただきたいと考えております。

なお、7月26日に八王子市姉妹都市締結50周年を記念いたしまして、子供研修事業に参加し、苫小牧の水道水のPRの一環として、本市と八王子市の子供たちに「とまチョップ水」を配布しながら、おいしい水の紹介をさせていただいたところでございます。

【委員】

「とまチョップ水」について、高丘浄水場の水を使っていると思っていたんですけどもいかがでしょうか。

【事務局】

採水につきましては、現在、植苗の工場にある高丘浄水場からの水を使い、煮沸、塩素を除いて、ボトリングをして販売しているところでございます。また、成分的には全く変わりはないということで、ご理解をいただきたいと思います。

○令和4年度の決算状況について説明

【事務局】

それでは、ご説明させていただきます。資料の3になります。令和4年度決算の概要、1枚ものの資料で簡単に決算状況の説明をさせていただきます。まず、水道事業会計からご説明いたします。

初めに、表の左側、収益的収支と書いてある項目をご覧ください。こちらは1年間の経営状

況を示すものでございます。収入は、水道料金や水道利用加入金など32億3,748万9,000円で、支出は施設の維持管理費、人件費、企業債という借金の借入れの利息で、これらが合わせて29億1,435万8,000円でございます。この差引きからさらに消費税を除いたものが水道事業会計としての純利益になりますが、令和4年度は1億5,507万6,000円の黒字の決算となりました。

次に、表の右側、資本的収支と書いてある項目をご覧ください。これは設備投資に関する収支でございます。収入は、企業債など13億1,134万1,000円で、支出は排水管、浄水場などの施設の整備費用、企業債の元金を返すお金で、これらを合わせて30億7,229万6,000円でございます。同じく、消費税を除いた収支の差引きは15億9,554万2,000円の不足になっておりますが、この不足につきましては内部留保などで補填をすることが会計上認められております。令和4年度につきましては、令和3年度までの純利益を積み立てた2億963万4,000円、令和3年度から繰り越している内部留保11億6,420万8,000円、令和3年度に財源として確保していた分2億2,170万円で補填できている状況でございます。

この結果、令和5年度に繰り越される財源となる累積資金は18億949万4,000円となっております。

次に、表の枠外、下のほうにある箇条書をご覧ください。令和10年度までの投資、財政計画を中心とした経営戦略の進捗管理について、三つの管理指標で判断をしていくこととしておりますが、そのうち、財務面の指標が二つ、経常収支比率と累積資金収支がございす。令和4年の決算では、①の経常収支比率は105.49%、②の累積資金は料金収益の9.22か月分となりました。いずれも現時点では、目標をクリアしておりますが、今後の推移を注視してまいります。以上が水道事業会計の決算状況となります。

続きまして、下水道事業会計に移りたいと思います。資料の裏面をお願いいたします。先ほどと同じように、表の左側、収益的収支の項目をご覧ください。

1年間の経営状況を示す項目につきましては、収入は下水道使用料、一般会計からの雨水処理に関する繰入金などで53億1,356万2,000円でございます。これに対して支出は、施設の維持管理費や人件費、企業債の借入れの利息などで47億1,015万3,000円でございます。この差引きからさらに消費税を除いたものが純利益でございまして、令和4年度の下水道事業会計は5億1,627万9,000円の黒字の決算となりました。

次に、表の右側、資本的収支の項目をご覧ください。収入は、企業債、国からの補助金などで20億2,238万2,000円となり、支出は下水道管や施設などの整備費、企業債の元金の支払いなどで38億2,605万6,000円でございます。こちら消費税を除いた差引きは17億1,654万4,000円の不足の状況でございますが、この不足額につきましても先ほどと同じく令和3年度までの純利益の積立金7億2,363万4,000円、令和3年度から繰り越している内部留保9億1,459万3,000円、さらに令和4年度当年度の内部留保7,831万7,000円、これらで補填をすることができた状況でございます。この結果、累積資金につきましては16億2,073万6,000円でございます。

先ほどと同じく、財政面の管理指標といたしましては、表の枠外の箇条書になりますが、①の經常収支比率は111.32%、②の累積資金は使用料収益の8.43か月分となり、こちらも目標をクリアしておりますが、今後の推移を注視してまいります。

以上、簡単ではございますが、決算の概要についてご説明といたします。

○経営戦略のローリング版について説明

【事務局】

参考資料といたしまして、計画本体も事前にお配りしているところでございますが、本日は3ページものの資料の4になりますが、苫小牧市水道事業・下水道事業経営戦略令和5年3月ローリング版概要の資料に沿って、ご説明をさせていただきます。

まず、資料の1ページ目をご覧くださいと思います。上段には、令和元年度の経営戦略策定時に定めた内容で経営の基本方針について、改めて示しております。水道・下水道の現状として、ともに普及率が99%を超えており、今後普及率の向上による増収が望めない中で、人口減少や施設設備の老朽化が進むという事業構造の変化が時代背景にございました。こういった現状の中、経営上の戦略として、累積資金を一定程度残しつつ、耐震化や老朽化対策を実施しながら、経営の両立を図っていく考えでございます。この経営戦略の計画期間は、令和元年度から令和10年度までの10年間としておりますが、計画と実績の乖離が生じてくるものと考えられますので、3年から5年ごとにローリングする計画としておりました。今回は、その1回目のローリングということになります。

資料1ページの下段、今回のローリングの主な内容でございますが、これまでの実績として令和3年度までの決算の内容を反映し、作業年度となった令和4年度は予算の状況を反映しています。また、実施計画の見直しを行いました新水道ビジョン実施計画や、下水道ストックマネジメント計画を基に投資計画へ反映し、令和5年度以降の推計の軌道修正を図ったという内容でございます。

続いて、資料の2ページをご覧くださいと思います。水道事業の投資・財政計画についてでございます。水道事業は、投資においては高丘浄水場管理棟の建て替えという大型事業を実施し、今後も耐震化事業を進めていく中で、同時にゼロカーボンに関連したマイクロ水力発電などに取り組んでまいります。今回の推計では、令和10年度の累積資金は4億9,400万円と推計しており、計画当初と比べて若干回復しましたが、次期計画期間における収支も考慮し、水道水準に関する議論を今のうちから深めていく必要があると考えております。

次に、資料の3ページをご覧くださいと思います。下水道事業の投資・財政計画について、ご説明をいたします。下水道ストックマネジメント計画に位置づけられた施設設備の改築・更新を着実に実行するとともに、その建設改良の規模として年およそ18億円から24億円の範囲で国の交付金等を活用しながら、老朽化対策を進めていくのが妥当と考えているところであり、当初計画と同様の考え方としております。推計では、計画期間中は資金が管理指標を下回る状況にはございませんが、今後、物価高騰など想定以上の影響も考えられることから、使用料水準に関

する議論も行う必要があるものと考えております。

以上の財政収支見通しを踏まえ、水道・下水道事業の進捗を把握する管理指標などをもって計画を管理し、また3年から5年ごとに計画の見直しを図ってまいります。以上、簡単ではございますが、経営戦略令和5年3月ローリング版の概要に関する説明とさせていただきます。

○質疑

【委員】

水道事業の中で縦の青い線で表している料金収益が、ずっと24億円、25億円ぐらいで安定している。人口が減ってきている今、17万4,000人ぐらいピークでいた人口が、16万8,000人に人口が減っているのに収入がずっと安定しているというのは、これはどういうことが考えられるのか、分かればお聞かせいただきたいと思います。

【事務局】

人口は確かに減少しているということになっておりますけども、世帯の構造を見ますと、単身世帯の方が増えて、件数としては増えているといった状況もございます。

確かに節水機器の普及ですとか、意識の高まり等々があると思いますけども、それに加えて世帯件数の上昇が、収入に影響として表れているものと考えているところでございます。

【委員】

下水道事業の3ページのグラフですが、令和10年のところでクロスしていますよね、この経営努力のこれは、このタイミングで、使用料について議論を行うかもしれないというタイミングが訪れるという予測を表しているということでしょうか。

【事務局】

クロスしているところは、茶色い折れ線グラフでしょうか。

茶色い折れ線グラフについては、企業債未償還残高と書いてありますけれども、起債といい、下水道事業が持っている借金の額ということになっておりますが、借金の残高がどんどん減っていくということで、経営上はどちらかというといいお話ということになります。

使用料の改定ということになりますと、大事な指標といたしましては、このグリーンの棒グラフ、累積資金収支というところですが、ここが使用料の収益3か月分、この下水道事業でいうと6億円程度、ここが6億円程度上回っているかどうかというのが判断基準になってまいります。

今、社会情勢も難しい時代ですので、我々は毎年ローリングをしながら、収益の状況を見守っているところですが、これがどんどん下がって、3か月という基準を下回るということが確実に想定されるという段階になれば、使用料の改定ということも考えていかなければならないということで、我々毎年シミュレーションを重ねて累積資金の状況を管理しているところでございます。

○部長挨拶

○閉会

終了後、高丘浄水場見学